

## 第4回三春町文化財保存活用地域計画策定協議会抄録

1 日時 令和7年3月19日(水) 午後1時30分～3時

2 場所 三春交流館「まほら」小ホール

3 出席者

(委員)

氏名	所属・役職等	専門分野等	備考
増子 博保	三春町商工会 前会長	商工	会長
佐久間 正幸	沢石まちづくり協会	地域振興	
大内 忠一	要田まちづくり協会	地域振興	
鈴木 政男	御木沢地区まちづくり協会	地域振興	
細川 秀夫	岩江まちづくり協会	地域振興	
圓谷 彰孝	三春町歴史民俗資料館友の会 会長	歴史	
廣田 吉三郎	文化財保護審議会 副会長	考古学	
小松 賢司	文化財保護審議会委員・福島大学 人間発達文化学 類 准教授	歴史学	
長田 城治	歴史民俗資料館運営協議会委員・郡山女子大学家政 学部生活科学科建築デザイン専攻 准教授	建築学	
後藤 雅樹	福島県教育庁文化財課 課長	自治体	オンライン出席
(代理出席：福島県教育庁文化財課 佐久間浩之文化財主査)			
嶋原 健二	三春町教育委員会生涯学習課 課長	自治体	

(事務局)

所属名	職名	氏名
三春町教育委員会	教育長	添田 直彦
三春町教育委員会 生涯学習課 歴史民俗資料館	総括主幹兼館長	平田 禎文
三春町教育委員会 生涯学習課 歴史民俗資料館	主査	西 宏恵

(文化財保存活用地域計画策定業務支援事業受託業者)

所属名	職名	氏名
株式会社 プレック研究所 歴史・文化計画部	部長	廣瀬 健
株式会社 プレック研究所 歴史・文化計画部	主査	森岡 里奈

4 欠席者

氏名	所属・役職等	専門分野等	備考
佐久間 保一	三春まちづくり協会・文化財保護審議会委員	地域振興	副会長
神山 史昭	中妻まちづくり協会	地域振興	
田村 信也	中郷まちづくり協会	地域振興	
高橋 龍一	みはる観光協会 副会長	観光	
山岸 英男	三春町和合会	文化財所有者	

## 5 配布資料

- ・第4回三春町文化財保存活用地域計画策定協議会次第
- ・令和6年度の事業報告について **【資料1-1】**
- ・文化財保存活用地域計画 地区ワークショップ開催報告 **【資料1-2】**
- ・文化財保存活用地域計画 アンケート調査実施報告 **【資料1-3】**
- ・令和7年度の予定について **【資料2】**
- ・地域計画の内容について **【資料3】**

## 6 議事の経過および要旨

### 1. 開 会

### 2. 教育長あいさつ

本日は第4回策定協議会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

顧みれば、昨年3月14日に令和5年度第1回策定協議会が発足し、ちょうど1年が経過しようとしております。この間、三春町の文化財をどう活用し、地域で大事にしていくかという考えに基づき、地区での説明会、ワークショップ、文化財保存活用地域計画フォーラム、アンケートのような形で、町民の皆さんにアピールを進めてきました。地区懇談会やフォーラムには、私達の予想以上に多くの方々にお集まりいただきました。ここまでの手応えとして、町民の方々の地域への理解の深さや郷土愛をひしひしと感じております。地域計画そのものが町民の皆さんの誇りとなるよう、意味ある取組みを続けていくことが私達の大きなテーマだと考えております。

本日は令和6年度の事業に関して様々なご意見をいただき、令和7年度に向けて事業をより進化させていくための話し合いをしたいと思いますと考えております。皆様には忌憚のないご意見をお願いし、私からの挨拶とさせていただきます。

### 3. 議 事

#### (1) 令和6年度の事業報告について

事務局より、資料1-1、1-2、1-3にそって説明

##### 【説明概要】

- ・令和6年度は、全3回の三春町文化財保存活用地域計画策定協議会、各種説明会として各地区説明会・各地区ワークショップ・文化財保存活用地域計画フォーラム、各種調査としてアンケート調査、庁内検討会、文化財保護審議会への意見聴取、素案作成、文化庁協議、コンサルティング業者への一部業務委託を行った。
- ・各地区ワークショップでは、町民に地域の宝物や保存・活用の方法を挙げていただき、地区ごとの特徴が見られた。

##### 【質疑・意見】

(庁内の情報共有について)

委員) ワークショップやアンケートの結果は庁内で共有されているのか。

事務局) 庁内検討会の資料にしたいとは考えているが、提示方法は検討する。

事務局) 現状ではまだ庁内検討会には出していない。

委員) 町長はまだ結果をご存知ないということか。

事務局) そうである。

(アンケート結果について)

委員) 資料1-3に示されたアンケート Q4で、三春町商工会で考案したグルメンチが11人の中学生から地域の宝物として挙げられており、まだ文化財とは言えないだろうが嬉しい結果だった。

事務局) 町民と中学生では着目しているものが違うと感じた。

委員) 学校給食でも提供されているため、このような評価になったのかと思う。

事務局) 食文化については、文化財とは言わないまでも、何らかの形で計画に生かしていきたい。

委員) アンケートの回収率は、中学生が80%で関心が高いのに対して、町民が9%で少ないように感じるがどうか。

事務局) 回答されたアンケートに対して何か返礼等すればもう少し回収率が上がったのかもしれないが、今後も引き続き課題になると思う。

委員) 中学生については学校ごとに回収しているため回収率が高いのだろう。

委員方々はアンケート回収率についてはどのような印象か。

委員) 中学生の子どもを介して回答した世帯もあるだろうし、福島市のアンケートの回収率はパーセントで算出できないくらい低かったことも踏まえると、10人に1人の回収率である9%という数字は悪くないと感じる。

委員) 私も絶対数として500部近く回収されているのはそれなりの精度があると考えて良いと思う。

## (2) 令和7年度の予定について

事務局より、資料2にそって説明

### 【説明概要】

- ・令和7年度は、全3回の策定協議会、各種説明会として文化財保存活用地域計画フォーラム、各種調査として若い世代を対象としたヒアリングまたはアンケートの実施、庁内検討会、素案作成、文化財保護審議会への意見聴取・諮問、文化庁協議、コンサルティング業者への一部業務委託を行う予定である。
- ・スケジュールとしては、令和7年度2月の協議会で計画の最終案を提示し、令和8年度7月に文化庁の認定を受ける予定である。

### 【質疑・意見】

(若い世代を対象としたヒアリングまたはアンケートの実施について)

委員) 高校生を対象とした調査は、どのような内容を考えているのか。

事務局) これから検討するが、アドバイスがあれば伺いたい。

委員) 対象とするのは田村高校の生徒全員か、それとも三春町出身者だけか。

事務局) 全員を対象とするのは難しいため、一定の人数を抽出して実施するかと思う。

委員) せっかくの機会であるため、全体に対して三春町の歴史や本計画の趣旨をレクチャーした後、一定の人数を抽出してヒアリングするような形が良いのではないか。

事務局) 意見を踏まえ、企画政策課とも調整の上検討する。

委員) 高校生であっても三春町出身であれば中学校までの教育課程で勉強するため三春町について知っていると思うが、高校の先生にも参加して学んでもらいたい。  
事務局) ここ数年、三春町出身ではない高校の先生が勉強のために資料館を訪れることも多いため、いただいた意見のような学びの機会になるようにしたい。

(スケジュールについて)

委員) 計画はスケジュール通りに策定できそうか。

事務局) 文化庁の認定は7月と12月の年2回あり、場合によっては12月に延期することも考えている。

委員) 了解した。

### (3) 地域計画の内容について

事務局より、資料3にそって説明

#### 【説明概要】

- ・計画対象は指定文化財と未指定文化財であり、未指定文化財の中からより価値の高いものを三春町独自の制度で登録等することを検討している。対象には他市町村の地域計画を参考に「歴史文化資源」等の名称を付けることを検討している。
- ・計画範囲は三春町全域であり、昭和30年の合併前の7地区で区分することを検討している。
- ・時代区分は、原始(旧石器時代、縄文時代、弥生時代)、古代(古墳時代、飛鳥時代、奈良時代、平安時代)、中世(鎌倉時代、南北朝時代、室町時代)、近世(安土桃山時代、江戸時代)、近代(明治、大正、昭和・戦争終結)、現代(昭和・戦争終結、平成、令和)とすることを検討している。
- ・三春町の歴史文化の特徴は、城下町と農山村の観点から、「①豊かな自然環境」、「②城館と武士の文化」、「③多彩な伝統産業と文化」、「④多様な信仰と祭り」、「⑤近現代の発展」、「⑥城下町の賑わい」とすることを検討している(文言は今後検討)。
- ・歴史文化の特徴①～⑤から関連文化財群、⑥から文化財保存活用区域を設定することを検討している。

#### 【質疑・意見】

(時代区分について)

委員) 明治時代を近世と近代のどちらから始まるとするかは戊辰戦争の捉え方による。三春の場合は戊辰戦争以降に近代が始まったと考えられるため、幕末は近代に位置付けた方が歴史について書きやすいのではないかと思う。例えば明治初期に作成されて江戸時代の村々の姿を示す絵図方資料の扱いを考えてみても、機械的に明治元年(1868)からを近代とするのは避けた方が良い。

事務局) 承知した。意見を踏まえて検討する。

委員) この時代区分で三春町の歴史について書いていくのであれば、中世と近世の区分も、秀吉が天下統一した天正18年(1590)ではなく、田村義顕が三春城を築城した永正元年(1504)とした方が分かりやすい。

事務局) 他の地域計画を確認すると、時代区分は一般的なものから各市町村に適した形に変更して良いようである。歴史の記述に際して改めて相談させていただく。

委員) そのような理解で良いのであれば、三春城が近世の間使われていたことを踏まえ、築城を近世の始まりとした方が三春町の歴史の記述としては意味がある。  
事務局) 承知した。

(三春町の歴史文化について)

委員) 歴史文化の特徴①～⑥の考え方は分かりやすいが、「③多彩な伝統産業と文化」は食、産業、生活等の他に分類できない色々な要素が混在している印象である。一方で、「⑤近現代の発展」とあるが、これは近現代に限定しなければならないのか。三春は近世の発展を引き継いで近代になった町である。③と⑤を人々の生活、文化に関わる項目として再整理すれば、地名が含まれても違和感ないのではないかと思う。

事務局) ご意見を踏まえて再検討する。

委員) 資料4は三春町の歴史や文化の変遷が整理されており頭に入りやすい。

事務局) この図を精査して三春町の歴史文化を示す図にしていきたいと考えている。

委員) 「自然」と「民俗」は縦の時代軸ではなく横軸に入るのではないか。また、枠で囲われたキーワードの位置は、出来事の期間を示すものと発生時点を示すものが混在している。例えば「祭礼・芸能・信仰」は古代まで遡るのではないか。キーワードを枠で囲むか囲まないか、枠の形を四角にするか丸にするか等の違いで、表現したい意味合いを変えることができる。この図は横長になるのが適切な形なのではないか。表現を再考してもらいたい。

事務局) 横軸を6つの歴史文化の特徴とする表を考えていたが、今回は提示できなかった。今後、時間軸や枠の表現等を精査する。

委員) 枠が出来事の変遷を示しているのであれば、時代が進む過程で幅が狭まったり広まったりする表現になるのではないか。

事務局) 図の表現方法について再検討する。

委員) 先程は、歴史文化の特徴③⑤の整理方法がそのまま関連文化財群に関係してくると捉えて意見した。「⑥城下町の賑い」は、関連文化財群のストーリーにすると他の地区を切り離すことになるため、文化財保存活用区域のストーリーとして考えるべきだと私も思う。関連文化財群については城下町と周辺農村を分けず、信仰や食、生活、文化等の枠で考えるのが良い。

事務局) 承知した。関連文化財群と文化財保存活用区域の考え方は、そのように理解していただいて問題ない。

(指定文化財について)

委員) 資料6について、柴原遺跡は調査をしていたはずだが、町としては未指定という扱いなのか。

事務局) 柴原遺跡は未指定である。縄文時代の考古関係の指定文化財は堂平遺跡と西方前遺跡出土品のみである。

委員) なぜ指定されていないのか。指定の基準は何か。調査主体が問題か。

事務局) 調査主体は関係ない。地域計画では、柴原遺跡は未指定文化財として取り上げる予定である。指定については文化財保護審議会で検討する。

委員) 今後の検討事項ということで了解した。

委員) 国登録文化財も含まれているため、資料6のタイトルの文言は「指定・登録文化財」とすべきである。

事務局) 承知した。

#### (4) その他

委員) その他として何かあるか。

事務局) 会議では専門家の先生方に発言していただく機会が多いが、今後、素案の作成を進めた際には、他の委員にも地域の代表者として各地区の現状や課題をご教示いただきたい。

#### 4. 閉会